

「第13回キッズデザイン賞」で6点の受賞 当賞の創設以来、13年連続で受賞

積水ハウス株式会社は、8月23日に発表されたキッズデザイン協議会（内閣府認証NPO法人、本部：東京都港区）主催の「第13回キッズデザイン賞」において、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門」で1点、「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」で2点、「子どもたちを産み育てやすいデザイン部門」で3点、計6点のキッズデザイン賞を受賞しました。当賞の創設以来、13年連続の受賞となります。

なお、9月25日には、全受賞作品の中から最優秀賞、優秀賞、奨励賞、特別賞が発表される予定です。

- キッズデザイン賞創設以来、13年連続で計87点受賞
- 子どもが安全かつ感性豊かに育ち、子どもを産み育てやすい社会環境の創出を目指す幅広い活動を推進

キッズデザイン賞は、多様なステークホルダーとともに子どもの未来が持続的で明るいものであるように、「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・空間・サービス・活動・研究の中から、子どもや子育てに関わる社会課題解決に取り組む優れた作品を顕彰するものです。



【キッズデザインマーク】

「第13回キッズデザイン賞」当社受賞内容

<子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門>

- ① 木調横ルーバー手摺^{※1}

<子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門>

- ② 抗疲労効果のある勉強環境の研究^{※2}
③ 絹谷幸二 天空美術館「フレスコ体験」

<子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

- ④ イクメン休業
⑤ ベビーOS^{※3}（3歳未満の乳幼児に特有の思考や行動）研究^{※4}
⑥ 江古田の杜プロジェクト^{※5}

積水ハウスでは、子どもの生きる力を育む「居どころづくり」の充実と、安全安心と自主性を考えた「子どものためのユニバーサルデザイン」の考え方をさらに深めた「コドモイドコロ」を提案しています。また、子育てを応援する社会を先導する「キッズ・ファースト企業」として、男性社員の1ヶ月以上の育児休業完全取得を目指す取り組み（2018年9月開始）などを通して、子どもが安全かつ感性豊かに育つ住環境、子どもを産み育てやすい社会環境の創出を目指して様々な活動を行っています。

※1 株式会社LIXILとの共同応募

※2 大阪市立大学健康科学イノベーションセンターと理化学研究所健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラムとの共同応募

※3 OS = Operating System ※4 コンビ株式会社との共同応募

※5 独立行政法人都市再生機構・医療法人財団健貢会 総合東京病院との共同応募

各受賞内容について

第13回キッズデザイン賞の当社受賞内容は以下の通りです。

<子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門>

① 木調横ルーバー手摺

積水ハウスでは、誰もが快適に暮らせるように独自の「ユニバーサルデザイン」を提供しています。

木調横ルーバー手摺は、安全・安心の両立を目指し、子どもが手摺をよじ登る時の身体の動きと、それに関わる身体寸法をもとに、転落防止対策を施した手摺です。デザインについては、株式会社LIXILとの共同開発ならびに、当社施設である総合住宅研究所や住ムフムラボなどを活用し、一般の方の意見を取り入れながら開発しました。

- ①光や風を最大限取り込む
- ②視線制御によるプライバシーの確保
- ③高級感とぬくもりを感じられる木調デザイン

この3つの魅力と、子どもの転落防止機能を両立することで、開放的で安心して子どもを遊ばせることができる空間を作り、通風を確保することで、洗濯物等の家事や育児負担の軽減にも寄与します。また、ガーデニング、家庭菜園等を通した家族のコミュニケーションの場を生み出します。

<子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門>

② 抗疲労効果のある勉強環境の研究

2016年に大阪市立大学と大阪市淀川区によって行われた約5,300名の小中学生を対象とした疲労の実態調査では、小学4年生から6年生の30%、中学1年生から2年生の46%が1ヶ月以上続く疲労状態にあり、子どもの疲労は深刻な状況となっています。

積水ハウス 住生活研究所は、この問題の解決に寄与するため、大阪市立大学と理化学研究所と共同で、子どもが勉強しても疲れにくい環境の研究に取り組んでいます。

「木質インテリアの空間」と「立って勉強できるカウンター」という2つのアイデアに対し、それぞれ実際に子ども達に作業を行ってもらい、作業前後の疲労度を計測。その結果、自律神経機能や認知機能に対して影響が見られ、抗疲労効果があることを実証しました。

当社は、本研究で得られた知見を商品開発に活用すると共に、様々な製品分野で、これまで未踏の領域であった子どもの抗疲労研究の促進を期待しています。

③ 絹谷幸二 天空美術館「フレスコ体験」

人類最古の絵画技法につながる壁画の古典技法のフレスコは、現在はあまり描かれておらず、実際に描かれた場所に行かないと見ることはできません。

そこで絹谷幸二 天空美術館では、絵画技法の原点であるフレスコを、子どもたちが身近で「見る」「創る」ことができる「フレスコ体験」を行っています。フレスコの歴史、描き方、剥がし方の展示解説を交え、本物のフレスコを間近で鑑賞後、レンガに塗った漆喰の「壁」に、子どもたちは実際に自分の手で、普段とは全く違う技法で絵を描きます。フレスコの色鮮やかな色彩は、創作意欲を活性化し、表現の自由と楽しさを体感できます。

また、100年後も残る作品は、子どもたちにとって一生の宝物となり、芸術への関心の扉となります。これらの体験を通じ、子どもたちがより芸術の楽しさを体感できる場を創造していきます。



機能的でデザイン性が備わった
木調手摺



子どもの手や足が掛からない手摺



研究用に試作した
木質インテリアの勉強空間



勉強カウンターにおける
試験の様子



本物のフレスコを間近で鑑賞



壁に絵を描く新たな創作体験

<子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

④ イクメン休業

「『わが家』を世界一幸せな場所にする」という積水ハウスのビジョンの実現には、まず社員が幸せでなければなりません。そこで「男性社員1ヶ月以上の育児休業完全取得」を宣言し、2018年9月1日より男性の育児休業制度「イクメン休業」の運用を開始しました。

円滑な導入ができるよう社内サポート体制を整備し、全社を挙げて取得を促進しました。イクメン休業が生み出す価値と効果は「本人」だけでなく「職場」「会社」「お客様」へももたらされます。2019年7月末時点で対象者約1,500名のうち約1,000名が取得を開始、500名以上が取得完了しており「職場や家庭でのコミュニケーションが活発になった」、「新たなイノベーションが起こっている」などの声があります。社内に蓄積されたデータや事例を基に「キッズ・ファースト企業」として男性の育児参加を促進する社会を牽引していきます。



「イクメン休業」取得促進ポスター

⑤ ベビーOS（3歳未満の乳幼児に特有の思考や行動）研究

3歳未満の乳幼児（以下、ベビー）期は、誤飲ややけど、ベッドでの窒息・転落など、特有の事故が起こりやすい時期です。

積水ハウスは育児用品メーカーのコンビ株式会社（東京都台東区）と共同で、ベビーの行動観察と親へのヒアリング調査を行い、ベビー期特有の思考や行動特性「ベビーOS」を把握しました。その結果を元に、安全・安心に配慮した上で、ベビーが楽しめるデザインの発想を構築し、「ベビーOS」シートとして資料化しました。

これにより、デザイナーや商品開発者は、ベビーの思考や行動特性を理解し、商品やサービスのデザインに活かすことが可能となります。パパやママにとっても、ベビーの安全配慮に役立つものとなっています。

当社は、今後も研究成果を幅広く商品開発・生活面での安全配慮に活用し、ベビーの安全・安心な環境づくりを実現していきます。



2歳児の行動観察調査の様子



ベビーOSをわかりやすくまとめた資料「ベビーOS」シート

⑥ 江古田の杜プロジェクト

江古田の杜プロジェクトは、江古田三丁目地区（東京都中野区）の国家公務員宿舎跡地において、積水ハウス、総合東京病院、UR都市機構から成る「江古田三丁目地区まちづくり協議会」が進める「多世代により育まれる持続可能な」街づくりです。

豊かな自然環境に囲まれ一帯が広域避難場所に指定されている地域特性を活かして、中野区で不足している子育て世帯の定住化に寄与するため、積水ハウスは「コドモイドコロのある街づくり」をコンセプトに、子どもを中心として多世代の絆を育み、世帯の循環を生む街づくりを提案しました。

多彩な住宅に加え、医療、保育、生活利便施設、地域コミュニティ施設を整備し、NPO法人ZEROキッズや地元の協力の下、施設の運営や地域交流イベント、サークル活動等のエリアマネジメント活動を行うことで、学生や子育て世代、高齢者など多様な世代が愛着を持って住み続けられる、ここにしかない魅力のある街の実現を目指しています。



豊かな自然に囲まれ防災機能を持つ地域環境



定期的な多世代交流イベント